

京都国立博物館の歴史

1889年、政府は、京都にある帝国博物館と奈良にある帝国博物館の両方を建設し、東京にある既存の博物館を補完することを決定しました。

帝国京都博物館の本館（現在の明治古都館）の建設は1892年に開始されました。1895年に完成し、1897年に新しい博物館の完成式が行われました。法的地位の変更に伴い、長年にわたって名前が変更されています。1900年に、京都帝室博物館に改名されました。1924年、1924年に皇太子（将来の天皇裕仁）が結婚した際に、この博物館は京都市に与えられ、京都の恩賜京都博物館に改名されました。

第二次世界大戦後、博物館は文化財保護委員会（後に文化庁となった）の管理下で中央政府の管轄に戻りました。1952年に京都国立博物館と改名されました。

博物館の法的地位は、2001年に制定された政府改革、および2007年に国立文化遺産研究所の管理下に置かれ、2007年に制定された政府改革に合わせて進化を続けています。

博物館には新しい施設が徐々に追加され続けています。1966年に新陳列館が開設されましたが、2014年に構造が平成知新館に変更されました。1980年に文化財保存修理所が開設されました。

元の明治古都館は現在、構造改善のため閉鎖されており、平成知新館には博物館コレクションの特別展示とテーマ展示の両方があります。展示会の際の設置期間中、博物館の広大な庭園とショップは一般公開されています。